

みなと市議会議員選挙 候補者個別分析レポート

桐生 ことは 様 — 得票構造の把握と次の一手のために

本レポートは、公開されている選挙結果データに基づき、候補者個人の得票構造・選挙区内での立ち位置・全国前例との比較を、公正・中立・客観の立場から分析した資料です。

- データに基づく客観分析（全22章）
- 当選ラインと得票構造の可視化
- 全国24,000選挙・27万人の前例データとの比較



分析レポート作成日

2026年07月06日

機密情報・関係者限り

外部配布厳禁



選挙情報局

公正・中立・客観の立場から、信頼できるデータと分析を提供します。

目次

01	本レポートについて	2	12	党派の視点	11
02	要点サマリー	2	13	選挙環境の分析	12
03	選挙概要	3	14	この選挙区の過去推移	13
04	得票数の全体像	4	15	全国ベンチマーク①	13
05	得票分布の統計分析	5	16	全国ベンチマーク②	14
06	当選ラインとの距離	6	17	追加得票シナリオ	14
07	ボーダーゾンの詳細	7	18	投票率シナリオ	15
08	惜敗率と法定得票	8	19	オプション分析の枠	16
09	得票の時系列推移	9	20	次回に向けた確認論点	16
10	選挙区内での立ち位置	9	21	用語解説	17
11	類似候補との比較	10	22	まとめ	18

お急ぎの場合は 02 要点サマリー だけでも結論をご確認いただけます。

01 本レポートについて

はじめにお読みください

本レポートは、サンプル県みなと市で行われた**みなと市議会議員選挙**（投票日 2026-04-21）における**桐生 ことは様**の得票構造を、公開されている選挙結果データに基づいて多角的に分析した機密資料です。選挙の勝敗要因は秘密投票のもとで誰にも断定できません。本レポートが提供するの、確認できる事実（数字）の徹底的な整理と、全国24,000件超の選挙・27万人の候補者データとの比較です。感想や印象論ではなく、次の意思決定の土台となる「測れるもの」だけを扱います。

レポートは4部構成です。**第1部（02～05章）**で選挙全体とあなたの位置を俯瞰し、**第2部（06～10章）**で当選ラインとの距離・ボーダーゾーンの構造を精査します。**第3部（11～16章）**では時系列・類似候補・党派・選挙区の歴史という文脈にあなたを置き、**第4部（17～21章）**で全国前例と機械的シナリオから次回への示唆を導きます。

今回の対象は、定数26に対し32人が争ったみなと市議会議員選挙です。桐生 ことは様は2,353票・27位で落選——当選ライン2,369票に対して到達率99.3%でした。本レポートは、この結果を構成する一つひとつの数字を分解し、次の一手を検討するための『問い』の形に組み直したものです。読み進める際は、各章末の「読み方」と確認論点に特にご注目ください。

本レポートの3つの約束

事実に限定	掲載する数値はすべて公開データから機械的に導出したもの。導出できない数字は載せません。
中立	特定の政党・候補者への評価は行いません。SAMPLE表記のある箇所は受注時に実データへ差し替える枠です。
実務目線	各章末の「読み方」と確認論点は、次の一手を検討する際の問いの形で示します。戦術の指示ではありません。

本レポートの数値は3つの層で構成されています。第1層は開票結果から機械的に導ける事実、第2層は全国データとの統計的比較、第3層は受注時に人が検証して差し替えるSAMPLE枠です。有料資料に「それらしい推測」を混ぜないため、層を厳密に分けています。数字の出所を常に確認できる状態を保つことが、本レポートの品質保証の核心です。

各章の末尾には「読み方」と「確認論点」を置きました。「読み方」はその章の図表を誤読しないためのガイド、「確認論点」は次の意思決定の前に漬しておくべき問いです。数字の羅列で終わらず、『この数字は何を意味し、次に何を検討すべきか』まで一貫して示すことを、本レポートの編集方針としています。読後は、20章の確認論点をそのまま陣営内の検討アジェンダとしてお使いいただけます。

本資料は依頼者本人（または正当な権限を有する陣営関係者）の利用に限定した機密資料です。無断転載・複製・第三者への配布を禁じます。公職選挙法上の取り扱い（文書図画への利用等）は、必ず専門家（行政書士・選挙管理委員会）にご確認ください。

02 要点サマリー

本レポートの結論。詳細は各章で検証します

- 桐生 ことは氏は**2,353票・27位で落選**（定数26・立候補32人・得票率2.2%）。
- 当選ライン 2,369票 まで **あと16票**（到達率 99.3%）。
- 前回出馬（2022年）比で得票は **+38票**。
- この選挙は上位3人が総得票の14%を占める分散型の選挙。

最終順位

27位

32人中

得票数

2,353票

得票率 2.2%

当選ライン

2,369票

26議席目の得票

当選まで

16票

あと一步の距離

総評：桐生 ことは氏の2,353票は、全32候補の平均（3,362票）の**70%**、中央値（3,222票）の**73%**に相当します。

この結論の意味：到達率99.3%は当選ラインの目前です。以降の各章は「不足16票をどの層から積むか」という配分の問題として読めます。

数字で押さえるべき現在地は3つです。第一に順位（32人中27位）——母集団の中での相対的な強さ。第二に到達率（99.3%）——当選ラインという合格基準までの距離。第三に平均・中央値比（70%/73%）——分布の中での位置。この3つはそれぞれ別の質問に答える指標で、1つの数字だけでは現在地を見誤ります。

本サマリーは結論の要約です。ここで示した各数字が「なぜその値なのか」「次に何を検討すべきか」は、以降の章で1つずつ根拠データとともに検証します。まず結論を頭に入れ、気になった指標の章から読み進めていただく使い方を想定しています。

この結果の一言要約：32人中27位・到達率99.3%——当選ラインまで16票の惜敗です。この距離が『実力不足』ではなく『配分と積み増しの問題』であることを、以降の各章が数字で裏づけます。

03 選挙概要

この選挙は「どういう戦場」だったか

対象選挙	みなと市議会議員選挙（サンプル県みなと市）
投票日	2026-04-21
対象候補者	桐生 ことは（公明党・新人・69歳） 落選
定数 / 立候補	26 / 32人（競争率 1.23倍）
投票率	52.3%（前回 55.1%・-2.80pt）
有効投票総数	107,575票
有権者数	98,000人（投票率52.3%）
当選ライン	2,369票（26位の得票）
トップ得票	5,140票

この選挙は定数26に対して32人が立候補し、競争率は1.23倍でした。競争率は比較的落ち着いており、有力候補間の票の奪い合いよりも「固定票をどれだけ確実に固めるか」が効く戦場です。

投票率は52.3%と前回から2.80ポイント低下しました。投票率の変動は当選ラインを直接動かし（本レポート18章で機械試算します）。

有効投票107,575票を定数26で単純に割ると1議席あたり4,137票。実際の当選ライン（2,369票）がこれより低いのは、票が上位に偏って分布していることを意味します。土台条件（競争率・投票率・定数）を頭に入れた上で、次章から個人の数字を見ていきます。

当選ライン2,369票は、有効投票総数107,575票の2.2%にあたります。

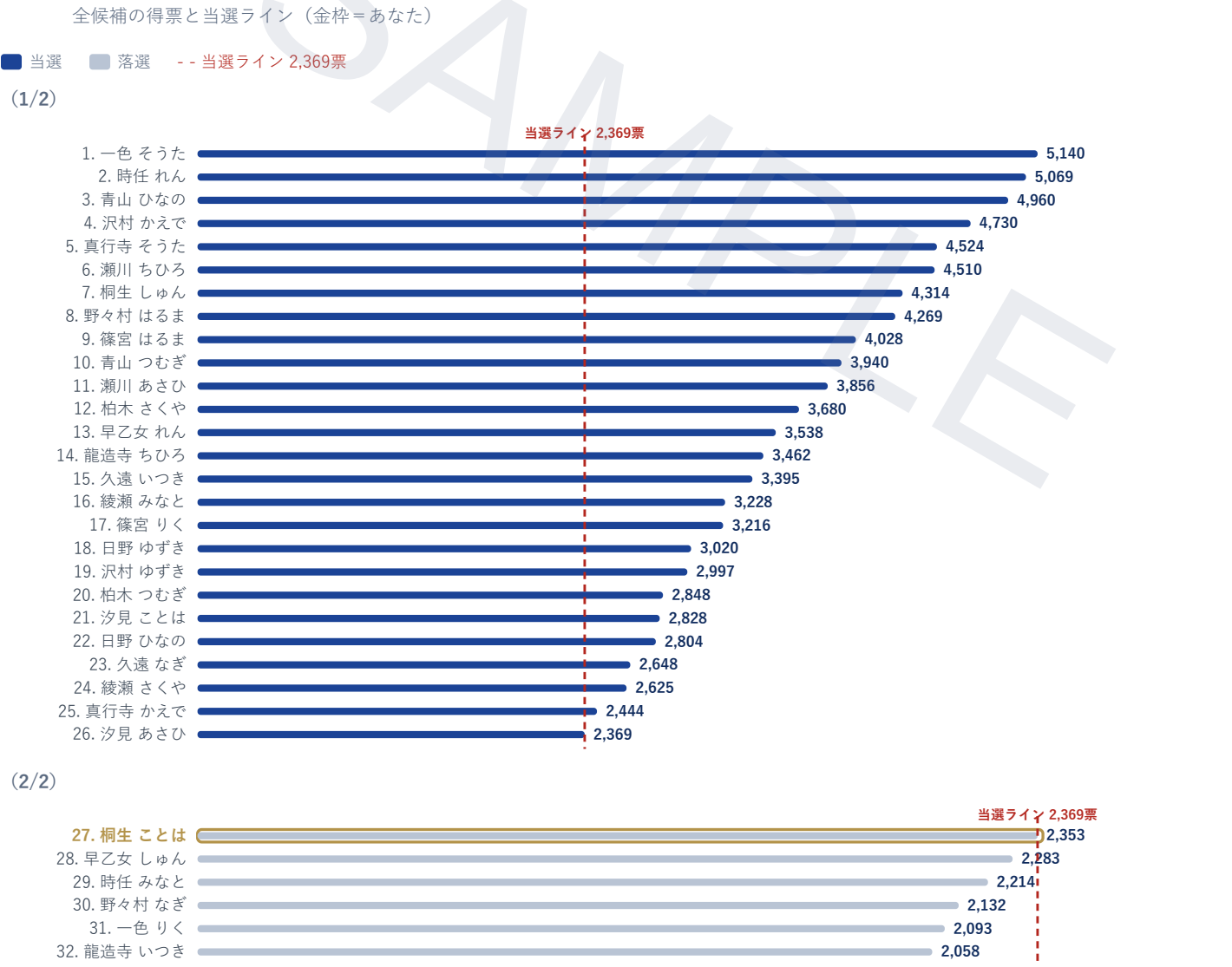
この比率は「1議席を得るのに、全体の何%の票を集める必要があったか」を示す指標で、定数が多い選挙区ほど小さく、少数激戦の選挙区ほど大きくなります。次回に向けた目標票数を考える際は、得票の絶対数だけでなく、この『必要シェア』の水準を頭に置くと、投票率が動いても崩れにくい目標が立てられます。

有権者98,000人に対し、有効投票は107,575票——棄権を含めた全有権者のうち、当選ライン2,369票は約2.4%に相当します。つまり、有権者全体のわずか数%の支持で1議席が決まる構造です。この事実、まだ投票していない層（棄権層）が次回の票田として大きいことを意味し、『既存支持の維持』と『棄権層の掘り起こし』のどちらに重心を置くかを考える出発点になります。

あなたの得票率2.2%をこの必要シェアと比べると、あと一步、必要シェアに届きませんでした。得票率は投票率の増減の影響を受けにくい、票数（到達率）と得票率の両面から現在地を捉えることで、環境変化に強い自己評価ができます。

この章のポイント：選挙結果は「個人の力」だけでなく「戦場の条件」の産物です。競争率・投票率・定数という土台条件を踏まえて、以降の各章を読み進めてください。

04 得票数の全体像



読み方：横棒は各候補の得票数（得票順）。赤い破線が当選ライン（26位＝2,369票）で、この線の右に届いた候補が当選しています。金色の枠があなたです。当選ライン付近にバーが密集するほど、わずかな票差で当落が入れ替わる接戦だったことを意味します。

この選挙のトップは5,140票、あなたはその46%の位置です。

上位3人が総得票の14.1%を占めており、票が比較的均等に行き渡る「分散型」の構造です。小さな積み増しが順位に直結しやすい選挙でした。

あなたの2,353票を全候補の平均（3,362票）と中央値（3,222票）の両方と比べると、平均比70%・中央値比73%です。平均は少数の大量得票候補に引っ張られやすい一方、中央値は「ちょうど真ん中の候補」を示すため、両者の差が大きい選挙ほど票が上位に偏っています。あなたがどちらの物差しでも上回っているか、片方だけで、分布の中での立ち位置の性質が見えます。

全国基準での読み方：全国24,000選挙の相場では、当選ラインは総得票を定数で割った『均等割り』よりやや高い水準に落ち着くのが通例です。この選挙の当選ライン2,369票が均等割り（4,137票）より低いという事実は、この選挙区が全国相場の中でどちら寄りだったかの手がかりになります。

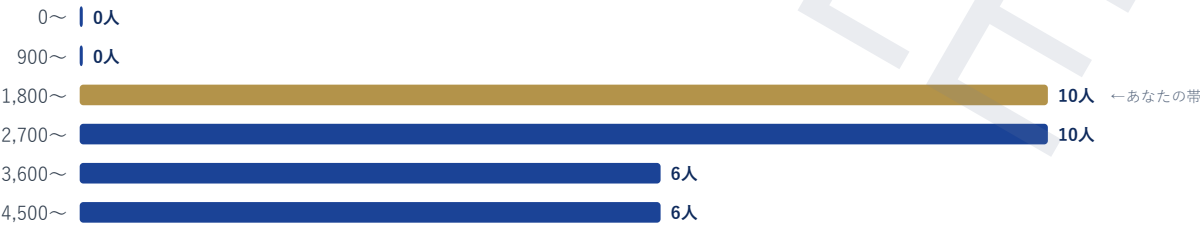
このグラフは全32候補を一望する『地図』です。当選ライン（赤破線）を境に、その右側に26人が当選、左側が落選という構図になっています。あなた（金枠）のバーの長さや、すぐ上下の候補との差の大きさを目で確かめてください。隣接候補との差が小さいほど、次回わずかな積み増しで順位が動く余地が大きいことを意味します。以降の章では、この全体像を『当選ラインとの距離』『分布の統計』『ボーダーゾーン』へと段階的に拡大していきます。

トップ（5,140票）と最下位、そして当選ライン（2,369票）の3点を目印にすると、この選挙の『票の地形』が読めます。トップが突出していれば知名度・組織の強い候補が票を集めた選挙、上位が横並びなら混戦——という具合です。あなたのバーがこの地形のどこに位置するかを起点に、『上を目指すのか、当選ラインを固めるのか』という次回の基本方針が決まります。本レポートは、この一枚の地図を各章で少しずつ拡大し、あなたの周辺を精密に描いていきます。

05 得票分布の統計分析

この選挙の「票の散らばり方」の中でのあなた

得票帯ごとの候補者数（ヒストグラム）



読み方：各得票帯に何人の候補がいたかを示します。金色があなたの属する帯。山が1つ（単峰）なら標準的な選挙、山が2つ以上あるなら「固定票を持つ層」と「持たない層」に二極化した選挙です。

平均得票 3,362票 あなたは平均比 70%	中央値（Q2） 3,222票 四分位 2,534 ～ 4,148票	標準偏差 942票 票のばらつきの大きさ
-------------------------------	---	----------------------------

上位3候補だけで総得票の14.1%を占めています。上位への集中度は比較的低く、中位の候補にも十分な票が行き渡る「分散型」の選挙です。この構造では小さな積み増しが順位に直結します。

あなたの得票2,353票は、四分位でみると**下位25%**に位置します。まず中央値（3,222票）超えが最初のマイルストーンです。

変動係数（標準偏差942票 ÷ 平均3,362票）は約0.28です。この値は候補間の得票のばらつきを平均で正規化した尺度で、大きいほど『少数の候補に票が集まり、多くの候補が薄く分け合う』構造を示します。同じ順位でも、ばらつきの大きい選挙では上位との差が開きやすく、小さい選挙では僅差の団子状態になりやすい——次に狙うべき目標票数の現実味を測る背景情報です。

四分位（Q1=2,534票／中央値=3,222票／Q3=4,148票）は、全候補を得票順に並べて4等分した区切りです。あなたがどの区間にいるかで、次の目標が変わります。下位25%なら中央値超えが第一関門、中位なら上位25%（Q3）入りが次の壁、上位25%なら当選ラインとの相対位置が焦点です。平均は外れ値に引っ張られますが、四分位は分布の形をそのまま映すため、『自分が今どの層で、次にどの層を目指すか』を段階的に描くのに適しています。

標準偏差の読み方：標準偏差942票は票のばらつきの尺度です。平均3,362票に対しこの値が大きいほど「上位と下位の差が激しい選挙」で、中位の順位は小さな票差で入れ替わります。次章以降で当選ラインとの距離を票数で管理していきます。

06 当選ラインとの距離

到達率 = あなたの得票 ÷ 当選ライン



読み方：ゲージが100%に達すれば当選圏。90%台後半の「あと一步」は、選挙全体の構造がわずかに違えば結果が逆転していた距離です。この距離は感覚ではなく票数で管理してください。

不足した16票を日常活動に翻訳すると、1日10人と新たに接点を持ち、その3割があなたに投票すると仮定した場合、約5日分の活動量に相当します（機械的試算）。「途方もない差」ではなく「設計可能な差」であることが、この数字の最も重要な含意です。

なお、本章の当選ラインは今回の実測値です。次回の当選ラインは投票率・候補者数で変動するため、18章の投票率シナリオと、16章の全国前例（同種選挙の上積み幅）を併せてご覧ください。

ゲージが示す到達率99.3%は、本レポート全体で最も重要な単一の数字です。この1つの値に、あなたの得票・当選ライン・選挙区の規模のすべてが凝縮されています。100%が当選圏、90%台が惜敗、80%台が基盤あり——という目盛りで自分の位置を捉えると、『次回どれだけ積みば届くか』が%という管理しやすい単位で見えてきます。以降の章は、この到達率を構成する要素（誰と競ったか・票がどう散らばったか）を一つずつ分解する作業です。

到達率という指標を採用しているのは、票の絶対数だけでは選挙区の規模の違いを吸収できないためです。あなたの2,353票は、当選ライン2,369票を基準にすると99.3%——この『合格ラインに対する何%』という見方は、規模の異なる選挙区や過去回との比較を可能にします。到達率90%台は、全国相場でみて『惜敗』と呼べる水準で、次回の当選が統計的に射程に入る位置です。

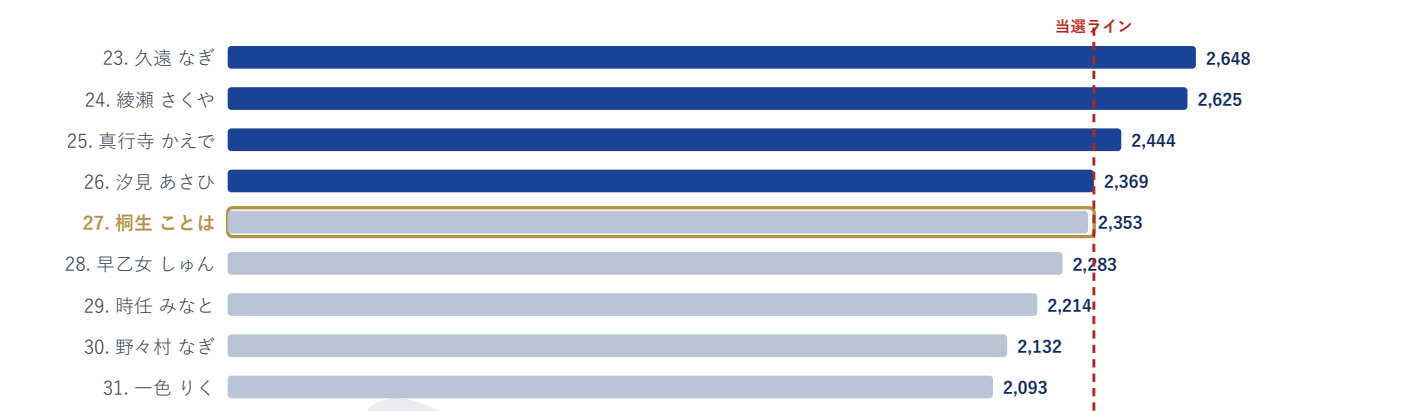
不足16票を有権者数（98,000人）に対する割合でみると約0.02%——こう分母を変えて眺めると、当落を分けた票差が全体の中でいかに小さな割合かがわかります。『わずか数%』という事実は、次回に向けて過度に悲観も楽観もせず、具体的な票数目標として距離を管理すべきことを示しています。

次に検討すべき問い：不足16票を、7章のボーダーゾーン競合からの奪取・棄権層の掘り起こし・既存支持層の維持のどの比率で埋めるか——この配分の設計が、以降の章の実務的な焦点になります。

07

ボーダーゾーンの詳細

あなたの前後4人——順位が入れ替わり得た範囲



読み方：あなたの前後4人に絞った拡大図です。この範囲の候補との票差は、地縁・組織・発信のわずかな差で入れ替わります。「誰に勝ち、誰に負けたのか」を名前で把握することが、次の競合分析の出発点です。

順位	候補者	党派	新旧	得票	あなたとの差	結果
23	久遠 なぎ	無所属	新人	2,648	+295	当选
24	綾瀬 さくや	無所属	新人	2,625	+272	当选
25	真行寺 かえで	公明党	新人	2,444	+91	当选
26	汐見 あさひ	自由民主党	新人	2,369	+16	当选
27	桐生 ことは	公明党	新人	2,353	+0	落选
28	早乙女 しゅん	無所属	新人	2,283	-70	落选
29	時任 みなと	日本共産党	新人	2,214	-139	落选
30	野々村 なぎ	日本共産党	新人	2,132	-221	落选
31	一色 りく	自由民主党	新人	2,093	-260	落选

ボーダーゾーンの分析で重要なのは「差の絶対値」より「差の性質」です。同じ100票差でも、相手が現職なら地盤の厚み、新人なら瞬発力（風・話題性）による差である可能性が高く、対策が異なります。上の表の新旧の列と合わせてお読みください。

この選挙のボーダーゾーン（当選ライン±5%）には4人がひしめいています。この人数が多いほど「最後のひと押し」の価値が高い選挙区です。

当選ライン2,369票の±5%は118票の幅にすぎません。上の表であなたと隣接候補との差を見ると、この選挙の当落がいかに小さな票差の上に成り立っていたかがわかります。1票差でも順位は動くため、この帯の中での勝敗は『実力の差』というより『詰めの差』として捉えるのが実務的です。

ボーダーゾーンは『順位が入れ替わり得た領域』です。ここに複数の候補が数十票差でひしめく選挙では、当落は候補個人の総合力というより、投開票直前の詰めの差——最後のひと押し・こぼれ票の回収——で決まります。上の拡大図で、あなたのすぐ上（勝てば逆転できる相手）とすぐ下（守るべき相手）を具体的な名前と票差で把握しておくことが、次の競合設計の起点になります。

次に検討すべき問い：上の表の各競合について、次回も出馬するか・現職か新人か・どの層に強いかを1人ずつ整理すると、「誰から何票を奪えば順位が入れ替わるか」という具体的な標的が見えます。この帯の競合分析は、漠然と票を増やすより費用対効果の高い打ち手につながります。

08

惜敗率と法定得票

公的な物差しで測る、今回の得票の意味

到達率（対当選ライン） 99.3% 100%で当選圏	得票率（対総得票） 2.2% 全32候補中27位	対平均比 70% 平均3,362票	対中央値比 73% 中央値3,222票
---	---------------------------------------	--------------------------------	----------------------------------

法定得票（公職選挙法93条）との関係

法定得票数	1,034票（有効投票総数 107,575票 ÷ 定数 26 ÷ 4）
あなたの得票	2,353票（法定得票数の 2.27倍 ）
判定	法定得票数を上回っており、供託金は返還される水準です。

法定得票は「選挙戦として成立する最低水準」の公的な物差しです。これを大きく上回っていることは、支持基盤が実在することの客観的な証明であり、次回に向けた投資判断（出馬・体制構築）の前提になります。

あなたの得票は平均の70%・中央値の73%に相当します。到達率99.3%と併せ、これらの比率は「この選挙での相対的な強さ」を測る公的な物差しです。全国分布との比較データが揃った際には、同種選挙の中での位置づけを16章で確認できます。

本章の4つの指標は、それぞれ別の分母で「あなたの得票の意味」を測っています。到達率は当選ライン、得票率は総得票、対平均比は平均、対中央値比は中央値が分母です。分母が違えば見える強さも変わるため、1つの数字だけを根拠に評価すると判断を誤ります。4指標を並べて読むことで、『合格ラインへの距離』と『分布の中での位置』を切り分けて把握できます。

惜敗率（本レポートでは到達率99.3%と同義）は、当選ラインを分母に置くことで『あと何%で当選だったか』を1つの数字で表します。到達率90%台は全国相場でみて『惜敗』と呼べる水準で、80%台なら基盤は確かにあるが伸びしろも大きい、100%超なら当選圏——という具合に、この1指標で自己評価の物差しが定まります。次回の目標を『得票〇票』ではなく『到達率〇%』で設定すると、投票率の増減に振り回されにくい目標になります。

この章の使い方：到達率99.3%・得票率2.2%という公的な物差しは、報道や他候補の評価と食い違ったときの『客観的な基準線』になります。感覚ではなく、これらの定義済み指標を共通言語として陣営内の議論に使ってください。

09

得票の時系列推移

選挙をまたいだ、あなた自身の軌跡



読み方：あなた自身の得票の軌跡です。上向きなら支持の蓄積が、横ばい・下向きなら支持の固定化・目減りが進んでいる可能性を示します。1回ごとの増減より「傾き」を見てください。

投票日	選挙	得票	順位	結果
2022-04-21	みなと市議会議員選挙	2,315	27	落選
2026-04-21	みなと市議会議員選挙	2,353	27	落選

初出馬（2022年・2,315票）から今回までの通算では**+38票**の変化です。得票を積み上げてきた軌跡は、地道な支持の蓄積が機能している証拠です。この傾きを維持できれば、当選ラインとの距離は時間の関数として縮まります。

出馬2回・通算+38票を1回あたりに均すと、平均+38票／回のペースです。1回ごとの増減には相手候補の顔ぶれや投票率の影響が混ざるため、複数回の平均ペースの方が『支持の地力の変化』を安定して映します。このペースが続くと仮定すると、当選ライン（2,369票）との距離が今後どう縮まる／広がるかを機械的に見通せます。

記録上、あなたはこれまで2回出馬し、うち0回当選しています。出馬回数を重ねた候補は、有権者の認知という無形の資産を蓄積している一方、同じ支持層に依存し続けるとその層の高齢化・目減りが得票の頭打ちとして表れます。過去の当落と得票の増減を並べて眺めると、あなたの得票が『認知の蓄積で伸びているのか、支持層の入れ替えができずに横ばいなのか』という構造が見えてきます。

次に検討すべき問い：得票の傾きが上向きなら『何が効いたか』を、横ばい・下向きなら『同じ活動の反復で足りるか』を問う段階です。時系列は活動の成果を映す最も正直な鏡であり、9章の軌跡と14章の選挙区相場を重ねると『自分が伸びたのか、相場が動いたのか』を切り分けられます。

10

選挙区内での立ち位置

得票分布の中での位置（▲＝あなた）



読み方：最少～最多の帯の中で、あなた（▲）がどこにいるかを示します。中央値より右なら上位半分。当選ラインは帯の中の一点にすぎず、次回の位置取りは「帯のどこを狙うか」で考えるのが実務的です。

全候補の平均

3,362票

あなたは平均比 70%

得票の中央値

3,222票

四分位 2,534～4,148票

同党派内の順位

6 / 6人

公明党

当選ライン（2,369票）は、この分布の中で最多得票の46%の位置にあります。トップ当選を目指す戦いと、当選ラインを確実に超える戦いは、必要な票数も戦い方も別物です。あなたの現在地からは、まず当選ラインの安定的な突破が現実的なターゲットになります。

立ち位置の分析は「誰と比較されるか」を決める作業でもあります。有権者・メディア・他陣営は、近い順位の候補とあなたを比較します。次章の類似候補が、その比較対象の実像です。

当選ラインを『帯の中の一点』として捉え直すと、今回の位置取りが立体的に見えます。当選ライン2,369票は最多得票の46%の高さにあり、あなたの2,353票はさらにその手前／先にあります。『当選ラインちょうどを狙う』のと『余裕を持って超える／トップ争いに加わる』のとは、必要な票数も戦い方も別物です。まず現在地を帯の中で正確に把握し、次に『帯のどこを次の目標にするか』を決める——この順番が、実務的な位置取りの考え方です。

得票の帯（最少2,058票～最多5,140票）は、この選挙の『票の格差』の全体像です。最多と最少の比は約2.5倍で、この開きが大きいほど上位候補の地力が突出した選挙、小さいほど横並びの混戦だったことを示します。あなたの位置（▲）が中央値より右にあるかどうかで、『上位半分の中での戦い』か『中央値超えが当面の目標』かという、次に狙うべきゾーンの性質が変わります。

あなたの2,353票は平均（3,362票）を下回り、中央値（3,222票）を下回っています。平均は少数の大量得票候補に引っ張られやすく、中央値は分布の真ん中を素直に示します。両方を上回っていれば分布の上層に確実に位置し、片方だけなら中間層——この2つの物差しの組み合わせが、あなたの『立ち位置の性質』を一言で表します。次回に狙うべきは、この位置から1つ上のゾーンへ移ることです。

同党派内順位の含意：あなたは公明党の6人中6番手です。同じ看板の中での序列は、推薦や支援配分といった党内調整の交渉力に直結します。分布内の絶対位置（帯のどこか）と、党派内の相対位置（何番手か）は別の軸であり、両方を押さえておくことで、個人票と党派票のどちらを厚くすべきかの判断材料になります。

11

類似候補との比較

得票が最も近かった6人——あなたの「同格」たち

順位	候補者	党派	新旧	年齢	得票	差	結果
26	汐見 あさひ	自由民主党	新人	35	2,369	+16	当選
28	早乙女 しゅん	無所属	新人	50	2,283	-70	落選
25	真行寺 かえで	公明党	新人	45	2,444	+91	当選
29	時任 みなと	日本共産党	新人	45	2,214	-139	落選
30	野々村 なぎ	日本共産党	新人	52	2,132	-221	落選
31	一色 りく	自由民主党	新人	40	2,093	-260	落選

得票規模が最も近い6人のうち2人が当選しています。この「同格帯の当選率」は、あなたの得票規模がこの選挙でどれだけ当選に近い水準だったかの傍証です。同格帯の顔ぶれ（党派・新旧・年齢）は、次回にあなたと同じ票田を狙う可能性が高い層でもあります。

実務では、この6人の次回動向（出馬・引退・転出）が、あなたの票の増減に最も直接的な影響を与えます。「誰が出なくなれば、どの票が浮くか」という視点で定点観測することをお勧めします。

なお年齢の近い候補は、有権者からみて「同じ世代の代表」枠を奪い合う関係になりやすいことが知られています。上表の年齢列も競合分析の材料としてご活用ください。

同格帯6人の当選率は2/6（33％）でした。あなたと数十票差の候補が当選しているという事実は、『あなたの得票規模が当落線にどれだけ接していたか』の最も直接的な証拠です。同格帯で当落が割れているほど、次回はわずかな差の詰め方が結果を分けます。

同格帯の当選率33％は、あなたの得票規模が当落線からどれだけ近い位置にあったかを示す傍証です。この帯で当落が割れているほど、あなたの得票水準が『あと少しで当選、あるいはギリギリ当選』という微妙な位置にあったことを意味します。得票の絶対量だけを見て一喜一憂するより、『同じ票数の人がどう転んだか』を見る方が、次回の現実的な難易度を測れます。

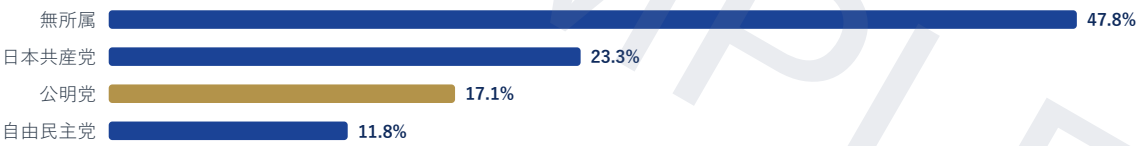
次に検討すべき問い：この6人のうち誰が次回も出馬し、誰が引退・転出するか——それによって『浮く票』の行き先が変わります。同格帯は次回あなたと同じ票田を奪い合う相手であり、この6人の動向を定点観測することが、最も費用対効果の高い競合分析になります。

12

党派の視点

党派別の得票シェアと、同党派内でのあなた

党派別の得票シェア（総得票に占める割合）



読み方：この選挙区の「政治的な地質」です。金色があなたの所属（公明党）。地方選では無所属が大きな塊になるのが通例で、無所属票は個人の地縁・実績で動きます。

同党派の候補（公明党・得票順）

順位	候補者	得票	結果
10	青山 つむぎ	3,940	当選
11	瀬川 あさひ	3,856	当選
19	沢村 ゆずき	2,997	当選
20	柏木 つむぎ	2,848	当選
25	真行寺 かえで	2,444	当選
27	桐生 ことは	2,353	落選

あなたは公明党の6人中**6番手**です。同党派内の序列は、推薦・支援配分の実務に直結します。党派内で上位にいることは、次回の党内調整における交渉力です。

党派シェアが小さい選挙区で党派の看板に頼る戦略は構造的に不利です。逆にシェアが大きいのに個人得票が伸びない場合、党派票の取りこぼし（党支持層への浸透不足）が数字上の仮説になります。

この選挙区で得票シェアが最大の党派は無所属（総得票の47.8％）です。

あなたの所属（公明党）のシェアと比べることで、党派票という『土台』の厚みが見えます。地方選では無所属の塊が大きくなりやすく、その場合、勝敗は党派の看板よりも個人の地縁・実績で決まります。党派シェアと個人得票の関係は、次回に党派票と個人票のどちらを厚くすべきかの判断材料です。

この選挙区には4系統の党派（無所属を含む）が候補を立てました。最大シェアの無所属が47.8%を占める構図は、この選挙区の『政治的な地質』——固定的な支持基盤の分布——を表しています。地方選では無所属が最大の塊になることが多く、その票は党派ではなく個人の地縁・実績で動きます。党派別シェアを頭に入れておくことで、次回どの党派票が奪える／守るべき対象かを見極められます。

次に検討すべき問い：あなたの2,353票のうち、どれだけが公明党の固定支持層由来で、どれだけが個人票かは開票結果だけでは分解できません。だからこそ、党派シェア（構造）と同党派内順位（相対位置）の両方から、党派票の取りこぼしがないかを点検する価値があります。

13 選挙環境の分析

この選挙の「戦場」としての条件を数値で

競争率 1.23倍 定数26・立候補32人	投票率 52.3% 前回比 -2.80pt	有効投票総数 107,575 有権者 98,000人
------------------------------------	------------------------------------	---

競争率1.23倍は、比較的落ち着いた環境です。競争率が高い選挙では、1票の重み（当選ラインを動かす力）が相対的に大きくなり、少数の強固な支持層を持つ候補が有利になる傾向があります。

投票率52.3%は前回から2.80pt低下しました。投票率の低下局面では組織票・固定票の比重が高まり、地道な地盤を持つ候補が相対的に有利になります。

有効投票107,575票を定数26で単純に割ると1議席あたり4,137票。実際の当選ライン（2,369票）がこれより低いのは、票が上位に偏って分布していることを意味します。

競争率1.23倍は、当選ライン2,369票の高さと表裏一体です。候補が増えれば票が割れ、当選ラインは下がる一方で当落の予測は難しくなります。逆に候補が絞られれば当選ラインは上がり、有力候補間の票の奪い合いが激しくなります。次回の立候補者数の見通しは、当選ラインの予測と目標票数の設定に直結する最重要の環境変数です。

この選挙を全国24,000選挙の相場に照らすと、競争率1.23倍は平均的～やや落ち着いた水準にあたります。競争率が高いほど票は割れ、当選ラインは相対的に下がりますが、当落の予測は難しくなります。環境条件（競争率・投票率・定数）は個人の努力では動かせない前提であり、だからこそ『どんな環境でも当選圏に届く票の厚み』をどう作るかが、次回設計の中心課題になります。

環境の含意：競争率1.23倍・当選ライン2,369票という条件は次回も完全には再現しません。だからこそ「環境が変わっても勝てる票構成」（低投票率型／高投票率型の双方で当選圏に届く固定票）を設計することが、環境分析の実務的な目的です。

14 この選挙区の過去推移

選挙区の「相場」はどう動いてきたか

投票率の推移（％）



当選ラインの推移（票）



読み方：選挙区自体の「相場の推移」です。あなた個人の数字（9章）とこの相場を重ねると、「自分が伸びたのか、相場が下がったのか」を切り分けられます。

この選挙区の当選ラインは過去2回で2,369～2,466票の間を動いてきました。あなたの今回の得票（2,353票）は、過去の当選ラインと比べると**0回分の「当選ライン」を上回る**水準です。つまり、選挙の巡り合わせ（投票率・顔ぶれ）次第で結果が変わり得た票数だった、という事実が歴史からも確認できます。

相場との重ね合わせ：当選ラインが2,369～2,466票の幅で動くこの選挙区では、『今回の当選ライン』を絶対視せず、次回はこの相場の中で上振れ・下振れの両方に備えるのが実務的です。あなた個人の得票推移（9章）とこの相場推移を重ねることで、『自分が伸びたのか、相場が動いたのか』という最も重要な切り分けができます。

15 全国ベンチマーク①

全国の市議選データ分布の中で、あなたはどこにいるか

ここからは視点を、この1つの選挙区から全国24,000件超・27万人の候補者データへと広がります。あなたの到達率99.3%が、全国の市議選という同じ土俵の中でどの位置にあるかを見ることで、『この選挙区では惜しかった』が『全国的にみても惜しかった』のか、それとも局所的な結果だったのかを切り分けられます。選挙区内の相対評価（1～14章）と、全国基準での絶対評価（本章以降）は、次回の投資判断を支える2本の柱です。

全国分布との比較データが不足しています（当選者の場合、到達率分布の比較は対象外です）。

ベンチマークの目的は優劣の判定ではありません。「同じ立場の人が全国にどれだけいて、その人たちがどうなったか」を知ること、次章の前例統計を『自分に当てはまる確率』として読めるようにするための準備です。

全国データは選挙の種別（市議）で絞り込んでいます。市議選と町議選では票の規模も構造も異なるため、同種同士の比較のみを採用しています。母集団の大きさ（母数）は各枠に明示しており、母数が多いほど統計的な安定性が高いと読んでください。

到達率を全国比較の軸に選ぶのは、票の絶対数が選挙区の規模に強く依存する一方、到達率（あなた＝99.3％）は『合格ラインに対する割合』として規模を正規化するためです。人口数万の市と数千の町では当選に必要な票数が桁違いでも、到達率なら同じ土俵で比較できます。この正規化があるからこそ、次章で示す『同じ到達率だった全国の候補のその後』を、あなた自身の見通しとして読むことができます。

この章の位置づけ：本章は『点』——今のあなたの位置——を全国分布の中で定めるためのものです。次章はその点から時間軸を伸ばし、『同じ位置にいた人たちがその後どうなったか』という確率を示します。位置と、そこからの遷移確率——この2つが揃って初めて、次回への投資判断が『勘』から『根拠のある賭け』に変わります。

16

全国ベンチマーク②

あなたと近い立場だった候補たちの「その後」

前章が『今のあなたの位置』を示したのに対し、本章は『あなたと同じ位置にいた人たちがその後どうなったか』を示します。選挙は1回きりの点ではなく連続する時系列であり、全国のデータには『惜敗からの再挑戦』『当選からの再選』という膨大な前例が蓄積されています。個々の勝敗は誰にも断定できませんが、集計された『その後の確率』は、次回出馬・体制構築・目標票数という投資判断の、感覚に頼らない土台になります。

全国前例の派生データ（candidate_outcomes）が未構築です。``python benchmark.py --build`` 実行後に再生成してください。

前例統計の使い方には注意が必要です。『惜敗者の○％が次に当選』という数字は、あなた個人の当選を保証するものではなく、『同じ立場の集団に起きたことの平均』です。しかし、母数の大きい集団の平均は、個々のバラつきを均して『相場観』を与えてくれます。宝くじと違い、選挙の再挑戦には『前回の惜敗』という実力の裏づけがある——この統計は、その裏づけの価値を数字で示すものです。

特に『再挑戦して当選した人の得票上積みの幅（四分位）』は、次回の目標票数を設計する際の現実的なレンジを与えます。控えめ（Q1）・中央値・強気（Q3）の3つの目標を持っておくと、活動の進捗に応じて狙いを調整でき、『高すぎる目標で息切れ』も『低すぎる目標で油断』も避けられます。この上積みレンジは、17章のあなた自身の追加得票シナリオと突き合わせて読んでください。

この章の使い方：個々の選挙の敗因・勝因は誰にも断定できませんが、「同じ立場の人がその後どうなったか」は事実として蓄積されています。出馬・体制・目標票数という投資判断の物差しにしてください。

17

追加得票シナリオ

得票を機械的に上積みした場合の順位変化（他候補は固定）

上積み	得票	想定順位	当落
+50票	2,403票	26位	当選圏
+100票	2,453票	25位	当選圏
+200票	2,553票	25位	当選圏
+300票	2,653票	23位	当選圏
+500票	2,853票	20位	当選圏

上積み	得票	想定順位	当落
+800票	3,153票	18位	当選圏
+1,000票	3,353票	16位	当選圏

読み方：今回の結果に票を機械的に足した場合の順位です。実際の選挙では他候補の得票も動くため、「距離感の物差し」としてお使いください。段差（順位が大きく動く上積み幅）に注目すると、票の密集帯が見えます。

この試算では**+50票で当選圏**に入ります。16章の全国前例が示す上積みの中央値（一票）と比べて、この必要票数が前例の範囲内にあるかどうか、再挑戦の現実性を測る一つの基準になります。

上積みの内訳を設計する際は、(1)前回投票してくれた層の維持、(2)ボーダーゾーン競合からの奪取、(3)棄権層の掘り起こし——の3経路に分けると、活動計画に翻訳しやすくなります。

この表の読みどころ：上積み幅を+50票から+1,000票まで並べたのは、『どの積み増しで順位が跳ねるか』の段差を見るためです。他候補の得票が密集する帯を越える瞬間、少しの票で順位が大きく動きます。逆に密集していない帯では、票を積んでも順位が動きにくい。この表を7章のボーダーゾーンと重ねると、『費用対効果の高い上積み量』の当たりがつきます。

なお本試算は『他候補の得票は不変』という単純化のもとでの機械計算です。実際には相手も票を積むため、表の必要票数は下限の目安と捉えてください。それでも『あと何票で圏内か』を数字で持つておくことは、漠然とした不安を具体的な目標に変える第一歩になります。

当選圏に必要な+50票を、活動量に翻訳してみます。仮に1日に10人と新たに接点を持ち、その3割が最終的に投票してくれると置くと、1日あたり3票——+50票には約16日分の活動が対応します（あくまで機械的な目安）。この『日数』という単位に落とすと、必要な努力量が具体的なスケジュールとして見えてきます。

18

投票率シナリオ

投票率が動いたら、当選ラインはどうなっていたか

投票率変動	想定投票率	想定当選ライン	あなたの到達率	判定
-5pt	47.3%	2,143票	109.8%	当選圏
-3pt	49.3%	2,233票	105.4%	当選圏
+0pt	52.3%	2,369票	99.3%	圏外
+3pt	55.3%	2,505票	93.9%	圏外
+5pt	57.3%	2,595票	90.7%	圏外

読み方：「総得票が投票率に比例し、票の分布構造は不変」という単純化した仮定での機械試算です。投票率が下がると当選ラインも下がり、同じ得票でも到達率が上がります。

実際には、投票率の変動は一樣ではなく「どの層が来なくなるか／新たに来るか」で効果が変わります。組織票中心の候補は低投票率に強く、浮動票依存の候補は高投票率に賭ける構造になりがちです。自分の支持層がどちら寄りかを、上位プラン（19章の枠）の年代・地区分析で確認するのが次のステップです。

仮にあなたの得票（2,353票）が完全に固定票だとすれば、投票率が47%まで下がる局面では到達率110%となり、当選圏に入ります。

「票を増やす」以外に「投票率の読みで戦い方を変える」という軸があることが、この表の含意です。

逆に投票率が57%まで上がる局面では、想定当選ラインは2,595票に上がり、同じ得票では到達率91%——圏外になります。この表の網掛け行（今回の実績）を中心に上下を見比べると、当選ラインが投票率という外部要因でどれだけ揺れるかが一目でわかります。あなたの得票の『安全マージン』は、この揺れ幅を吸収できる大きさかどうかで評価してください。

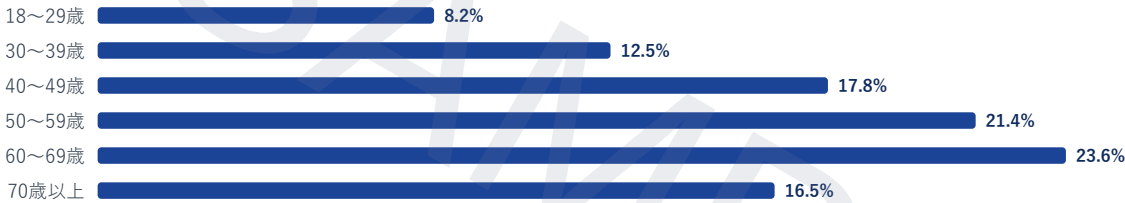
次に検討すべき問い：あなたの支持層は低投票率でも来てくれる固定票寄りか、高投票率で伸びる浮動票寄りか——この見極めが、次回どちらの投票率シナリオに賭けて戦い方を組むかを決めます。19章の年代・地区分析（上位プラン）は、その見極めの実データを提供します。

19 オプション分析の枠

上位プランで提供する深掘り分析のサンプル

SAMPLE 以下は表示サンプルです。実データの入手可否を確認のうえ個別にお見積りします

年代別の支持構造（サンプル）



読み方：支持層の年齢構成です。特定の世代に偏っている場合、その世代の投票率変動があなたの得票を直撃します。

地区別の得票（サンプル）

地区	得票	シェア	前回比
中央地区	412票	28.3%	+2.1pt
東部地区	356票	21.7%	-0.8pt
西部地区	298票	18.1%	+4.5pt
南部地区	275票	16.7%	-1.2pt
北部地区	302票	15.2%	+0.4pt

読み方：投票区別の開票データが公表されている自治体では、地区ごとの強弱を実データで分析できます。

これらの分析は、自治体による投票区別データの公表状況・独自調査の実施可否に依存するため、上位プランとして個別見積りでの提供になります。本レポートの数字（どの帯に、あと何票）と組み合わせると、「どの地区の、どの世代から、何票」という実行可能な計画に落ちます。

20 次回に向けた確認論点

データから立てるべき「問い」——優先度つき

優先度	論点
最優先	不足16票の調達計画：維持・奪取・掘り起こしの3経路への配分を決める（17章）

優先度	論点
高	ボーダーゾーン競合（7章）の次回動向の定点観測——引退・転出で浮く票の見積り
高	得票推移（9章）のトレンド評価——同じ活動の反復で足りるか、新しい層が必要か
中	投票率シナリオ（18章）を踏まえ、低投票率型／高投票率型どちらの選挙でも勝てる票構成の設計
中	全国前例（16章）の上積み幅を目標票数に翻訳し、月次の活動量（接点数）に落とすこと
中	同党派内の序列（12章）を踏まえた、推薦・支援体制の早期確認
低	上位プラン分析（19章）の実データ入手可否の確認——投票区別開票結果の公表状況

これらは戦術の指示ではなく、意思決定の前に潰しておくべき「問い」のリストです。それぞれの問いには本レポートの該当章の数字が判断材料として紐づいています。陣営内の検討会議で、この表をアジェンダとしてそのままお使いいただけます。

最初の90日でやるべきことに絞るなら：(1)最優先の票数計画、(2)競合の動向確認、(3)支援体制の確認——の3点です。数字の裏付けなく活動量だけを増やすのは、最も消耗の大きいパターンであることが全国の前例からも示唆されます。

最優先論点は『不足16票の調達計画』です。この数字は17章の追加得票シナリオ、7章のボーダーゾーン競合と紐づいており、3つの章を横断して読むことで、どの層から何票を積むかの配分が具体化します。

これらの論点に共通するのは、いずれも『本レポートの数字を判断材料に持っている』という点です。たとえば「ボーダーゾーン競合の動向」は7章の前後4人の実名と票差、「上積み幅の目標票数への翻訳」は16章の全国前例と17章の追加得票シナリオが根拠になります。問いと根拠データが一对一で結びついているため、検討会議では『どの数字を見ればよいか』で迷いません。これが、印象論ではなくデータに基づいて次の一手を決めるということの実務的な意味です。

この表の使い方：各行の優先度は『次回の結果への影響の大きさ×着手の緊急度』で機械的に付与しています。上から順に潰していく必要はありません。まず最優先行の票数計画を固め、その裏付けに必要な章（7・9・16・18章）から順に深掘りする、という使い方を想定しています。

21

用語解説

本レポートで使用した指標の定義

用語	定義
当選ライン	その選挙で最後に当選した候補（定数と同じ順位）の得票数。当選に必要なだった票数の実測値。
到達率	あなたの得票 ÷ 当選ライン。100%以上なら当選圏。惜敗の度合いを測る本レポートの中心指標。
惜敗率	本来は「落選者の得票 ÷ 最下位当選者の得票」。本レポートでは到達率と同義で用いる。
法定得票	公職選挙法93条が定める最低限の得票。議員選＝有効投票÷定数÷4、首長選＝有効投票÷10。下回ると供託金が没収される。
四分位	全候補を得票順に並べ4等分した区切り。Q1（下位25%）・中央値・Q3（上位25%）で分布の形をつかむ。
按分票	同姓・同名の候補がいる場合に、氏名の一部だけ書かれた票を得票割合で配分する制度。小数点付きの得票が生じる。

用語	定義
全国前例ベンチマーク	全国24,000件超・27万人の候補者データから「あなたと近い立場だった候補のその後」を集計した統計。
ボーダーゾーン	当選ラインの前後。地縁・組織・発信の小さな差で順位が入れ替わる領域。

本レポートの指標はすべて上記の定義に基づいて機械的に計算されています。他の資料・報道と数値が異なる場合は、定義の違い（例：惜敗率の分母）か、データ時点の違いが原因である可能性が高いです。

本レポートで最も頻繁に登場した指標は『到達率』（今回のあなたの値は99.3%）です。当選ラインを分母に置くこの指標は、規模の異なる選挙区や過去回・全国相場との比較を可能にする共通の物差しとして機能します。用語の定義を揃えておくことは、陣営内・専門家との議論で『同じ言葉で同じものを指す』ための前提であり、数字の誤読を防ぐ最初のステップです。

22 **まとめ**

本レポートの結論の再確認

桐生 ことは様の2,353票は、サンプル県みなと市の政治地図の上に確かに存在する支持の証明です。当選ラインまであと16票という距離は、全国の前例に照らして「設計すれば届く距離」であることを、本レポートの各章の数字が示しています。

選挙の意思決定は最終的に、数字に表れない現場の実感と、数字が示す構造の両方で行うものです。本レポートは後者を最大限に整理しました。前者と突き合わせ、違和感のある箇所こそ深掘りの候補としてご活用ください。

次回に向けた最初の一手は、17章の追加得票シナリオが示す『+50票で当選圏』という目標を、月次の活動量に翻訳することです。全国前例（16章）の上積み中央値と照らし合わせれば、この目標が前例の範囲内かどうかを客観的に判断できます。

注記・免責事項

本レポートの分析は、公開されている選挙結果および独自集計に基づくものであり、将来の選挙結果を保証するものではありません。数値は公表情報の更新により変更される可能性があります。正式な記録は各選挙管理委員会の発表をご確認ください。

本資料は依頼者本人（または正当な権限を有する陣営関係者）の利用に限定した機密資料です。無断転載・複製・第三者への配布を禁じます。公職選挙法上の取り扱い（文書図画への利用等）は、必ず専門家（行政書士・選挙管理委員会）にご確認ください。

SAMPLE表記のある章（19章）は表示サンプルであり、実データの提供は上位プラン（個別見積り）となります。

— 本レポートが、次の一手の確かな土台となることを願って —

選挙情報局

候補者個別分析レポート／作成日 2026年07月06日